

東日本大震災3・11から丸3年

東北3県で追悼式



岩手の復興状況を説明する多田副会長

3月11日は、東日本大震災から丸3年の月日が経ち、日本や世界各地で犠牲者追悼行事がおこなわれた。

サンパウロでも11日午後2時から岩手・宮城・福島県の3県共催で「大震災3周年追悼行事」が、宮城県人会で厳かに行われ、平日にも関わらず約130名が、被災犠牲者への黙祷や被災地の早期復興を祈願した。



開会の辞で千田岩手県人会長は、震災で命を奪われた方々の冥福を祈り、在住日系人にとって「ふるさとを思う心は一つ」、被災者が「当り前の生活」に戻る事を祈願したいと語り、続いて犠牲者に対し1分間の黙祷を捧げた。

佐野浩明首席領事は「遠く離れたブラジルで、3周年の追悼行事は、日本政府、国民にとってもありがたく心強い」と語った。

県連代表の川合昭秋田県人会長は、同じ東北人として私たちは、震災犠牲者や被災された方々の事を決して忘れません。「日本頑張れ！東北がんばれ！」とメッセージがあった。



「各県知事のメッセージ」岩手の達増拓也知事は、ブラジルはじめ世界各国からお見舞いや、義捐金や様々なご支援に改めて感謝致します。震災3年目を「安心・暮らし・なりわい」の3つの原則に基づき、復興の基盤づくりに全力をつくし、結果、災害

廃棄物の処理に目途がつき、仮設から移転先となる敷地の用地約6割を取得。さらに水産業の水揚げ量は平年の7割まで回復。震災後一部運行していた「三陸鉄道」も4月には全線が復旧しますと明るい話題を提議。



県では「本格復興推進年」とし「ふるさと三陸創造」を実現する



ため県民が一つになって参画します。と多田マウロ副会長が代読。ポゴ語訳も披露した。村井宮城県知事からは、災害廃棄

物の処理が本年度完了見込で、復旧に向けた成果を鈴木副会長が代読。

原発事故もあった福島県の佐藤知事は、「風評被害は根強い」。新たな産業の創出にも取り組んでいると、永山福島県人会長は知事のメッセージを披露。



宮城や岩手の復興状況の slides を映写。岩手の映像は多田副会長が説明した。

小倉タダシ州防災研究員が slides を使い、東日本大震災の教訓についての講演があった。



中沢宮城県人会長は「ブラジルと東日本大震災」と題しスピーチ。最後は参列者全員で復興ソング「花は咲く」を合唱。永山福島県人会長が参列者に謝意を示し閉会した。